

伝統行事の継承

●鹿の角きり行事

古都奈良の秋を彩る伝統行事「鹿の角きり」は、鹿が町民に危害を与えたり、互いに突き合って死傷することを防ぐため、寛文11年(1671年)にはじめられたと伝えられています。



奈良の人々と鹿の共生の中で生まれた、古都奈良ならではの伝統行事です。



●鹿寄せ

「鹿寄せ」は、明治25年に「鹿苑」施設の竣工式に始められました。ホルンを演奏すると、音色に誘われてたくさんの鹿たちが集まってきてくれます。(要予約・有料)



●鹿まつり(鹿の慰霊祭)毎年11月20日

奈良公園では、毎年300頭以上の鹿が死亡します。鹿苑内にある「鹿塚」にて一年間に亡くなった鹿の慰霊祭をおこないます。

鹿のためにできること

奈良公園は、鹿や野生動物たちの生息地 (habitat) です。



奈良公園内には人によって捨てられたプラスチックやビニール袋や飲料缶などのゴミが散乱しています。また、公園道で交通事故に遭遇し、鹿たちが傷ついています。生息環境は、悪化の一途をたどり、生きものたちは悲鳴を上げています。



奈良公園は、鹿や生きものたちの生息地 (habitat) ということを私たちが認識することで、おのずと行動もかわってきます。誰にでも、すぐにはじめられる、とても簡単なことで、鹿や生きものたちの生息地は保たれるのです。

●鹿募金箱の設置

「奈良のシカ」の支援ロゴマークのはいった募金箱を設置していただける方を募集しています。



「奈良のシカ」の支援ロゴマークは、飲料自販機などにもついています。このマークは「奈良のシカ」の保護活動を支援いただいている目印です。どこかでこのマークを見かけられたら、ぜひご協力をおねがいします。

「奈良のシカ」の歴史

世界文化遺産に登録されている奈良公園一帯は、1300年もの歳月に守られてきた貴重な文化財や国の天然記念物に指定されている「奈良のシカ」が、その四季折々の自然が織りなす美しい景観の中に存在しています。とりわけ都市近郊で野生動物である鹿や生きものたちに親しむことのできる、世界にも類のない貴重な公園です。

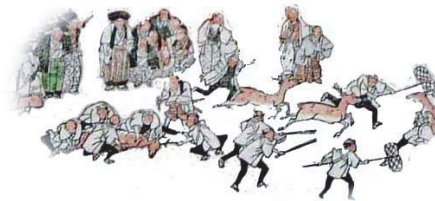
鹿は、古来より親しまれてきたことは、万葉集などからうかがえます。



鹿島立神影図・春日権現験記：春日大社所蔵



春日大社には、称徳天皇の頃(768年/神護景雲2年)平城京鎮護のため鹿島神宮(茨城県)の武甕槌命を祭神に勧請した時、白鹿の背に乗り御蓋山に奉遷されたという伝説から奈良のシカは神鹿(しんろく)として神聖視され、保護敬愛されてきました。



鹿の角きり図：若草山麓東栄堂所蔵

「奈良のシカ」は、その永い歴史の中で、時々の社会情勢の変化によって再々にわたり存亡の危機にさらされました。明治時代の混乱期や、第二次世界大戦の戦中戦後にはエサの不足や人による殺傷などにより絶滅寸前の危機に陥りました。

1957年に国の天然記念物に指定され、(財)奈良の鹿愛護会を中心に、奈良県、奈良市、春日大社などの援助協力のもと保護活動に努め、今日では約1200頭の鹿が公園一帯に生息しています。

奈良公園の自然が美しいわけは?? 自然の偉大な仕組みを知ろう!!



財団法人奈良の鹿愛護会

Foundation for the protection of Deer in Nara park

入会のご案内



財団法人奈良の鹿愛護会では、国の天然記念物「奈良のシカ」の保護活動に取り組んでいます。さまざまな活動は、みなさまからの会費や、ご寄付、募金などの支援により支えられています。貴重な文化財である「奈良のシカ」と、美しい自然の保護のために、みなさまの温かいご支援、ご協力をお願いします。